

府職労自治研集会 分科会

仕事を通じて 府政の実態が明らかに

府職労では、自治研活動を大いにとりくもうと、各分野別の分科会を順次開催しています。9月は三つの分科会が開催され、民間の団体の方の参加もあり、府政の現状や職場の実態、課題などを交流し、学びあいました。

継続される大規模開発見直し 官から民への流れをチェック

公共事業とは何だ!

府職労自治研集会公共事業分科会(土建支部・土木現場支部が主催)は9月19日、関係団体である全建労や建公労、建設政策研究所、大阪借地借家人組合連合会など幅広い分野も含めて60名を超える参加で開催しました。記念講演で中山徹氏(奈良女子大学大学院教授)は、「これからの公共事業は、少子化による人口の減少が続くもとで新しい『都市問題』を真っ正面から議論した。



「建設から維持管理へ」となる公共事業、土建支部から「PFI事業による府営住宅建替えの問題点」というテーマで各支部から

「フリー討論では、「土木事務所地域支援課の現状と問題点」(土現支部)、「橋下行革の府営住宅半減攻撃」(土建支部)、「官民共同の大阪建設共闘の取り組み」(大阪建設共闘)、「二重派遣による解雇撤回のたかひ」(建公労)、「住宅

こどものくらし、福祉、教育の現状を見つめて

子ども達の生活の実態は

9月23日、府職労自治研集会子ども分科会が開催され、「貧困」に起因することをメインに据えた報告と意見交換を行いました。

橋下府政の府民いじめの実態を知らせ共同の運動広げよう

どうなるの! 府民の健康

9月25日(土)、「どうなるの! 府民の健康」と題して府職労自治研集会「保健医療分科会」が開催され、患者団体や府下の医療労働者など40名を超える人が参加しました。



今回の分科会は保健医療に関する各団体の発言を中心に運営されました。まず、主催者側から①強まる公的責任放棄、地方自治の変質の攻撃、②府民の健康実態とさらに府民の施策を切り捨てる橋下知事の「財政構造改革プラン

「千里救命救急センターの役割」がそれぞれ発言されました。いずれも国・自治体が公的責任を放棄する中、府民のいのちと健康を守るため、積極的な運動を展開し、国や大阪府に対して要求運動をとりくんでいます。討論では、11名の方が発言され、患者団体からは医療従事者と患者との共同した取り組みの推進、また国の社会保障の貧弱さや橋下府政の府民施策切り捨てを広く府民に知らせ、共同の運動を広げていくことが重要とする意見が多く出され、改めて国、自治体の責任を問い、あわせて府政の民主的転換の取り組みを強化することも重要という意見もだされました。



①地域で支えあう環境づくり(英国にもない検診制度の充実・少年数学級実現を含む見守り体制強化等)②貧困に対する労働政策(軍費削減・政党助成金の廃止・企業の内部留保の制限等)③児童虐待対応システムの改善(児童相談所一極集中を改善し家裁を含めた体制作り・介入とカウンセ

「財政構造改革プラン」による人件費削減撤回せよ! ガマンも限界! 怒り大爆発!

10.21府労組連学習大決起集会

日時: 10月21日(木) 時間: 18時45分 場所: クレオ大阪中央 大ホール 職員・組合員に声をかけ最大規模で参加ください。 「怒りの一言」「全職員署名」を持参ください。

